

ニッポン全国 『旅する対話』 熊本の巻

テーマは、「ディアスポラの母」なのだ！
おかあさんといっしょに、「3・11以降のわれらの生」を語り合って、考えるのだ！！

2013年3月2日 熊本・橙書店
熊本市中央区新市街 6-22 096-355-1276

Part 1 : 14 : 00~16 : 00

ディアスポラの母と子と、「春」をめぐる、あんな話、こんなこと。

戦火の中のチェチェンの子供たち、3・11以降の熊本の子供たち、
それぞれの暮らしの中で「春」を想って子供たちが描いた絵があります。
その絵から紡ぎだされた物語があります。
チェチェンの「春」、熊本の「春」、2つの春の物語をひもといて、
2つの春を結んだ先にきっと見える、
もう一つの光に満ちた「春」の物語に想いを馳せて、
チェチェンの母と、熊本の母たちが熱く語り合います。

Part 2 : 18 : 00~20 : 00

橙大学番外編 だいたい大学 vol.2
「YaYaYa! 予感が町にやってくる！」
～チェチェンのディアスポラの母 ママ・ザーラと語り合うタベ～

※ホストは、だいたい大学専任講師 シロ&フランシス（またの名を跡上史郎&姜信子）

戦火をくぐりぬけ、亡命者として異郷の地に生きるチェチェンのディアスポラの母
ザーラ・イマーエワが、ディアスポラの旅の記録の映像『いって・らっしやい』を携えて、
10年ぶりに熊本にやってくる。

10年前、戦火の中のチェチェンにとって、平和を謳う憲法を持つ日本は
希望の国そのものに見えたという。

でも、日本は本当に「希望の国」なのだろうか？

3・11以降、日本に生きるわれらは、ますます不穏なナニカを感じてはないか？

戦火のチェチェンの現実、日本に生きるわれらにとって、まるで明日の「予感」のようではないか？
さあ、だから、「予感」と「希望」をめぐる、ママ・ザーラと語りあってみよう！